



発行 KOA 森林塾 (事務局) 0265-70-7065
 編集 早川 清志
 題字 島崎 洋路

『集中コース秋の部 開催報告』 杉人に必要な能力とは何?!』

問伐などの山林整備をする仕事に就く人を、森林作業員とか林業就労者とか言いますが、お百姓さんみたいな、簡略的を得た言い方はないものでしょうか。

山師とは、鉾脈などの探査をする人も含めたいい方の方です。パブルがはじける前の、原野商法のような詐欺師まがいの商売をする人を指すこともあり、これは



ワイゼで樹高を測る。慣れないと難しい

木樵(きこり)という言い方も、伐採専門で今ひとつ広がりにかけてそうな気がして使いにくい。で、最近はおんど聞かないが、杉人(そまびと)という表現もあります。生活総てが山の中か、というように、時代錯誤的な雰囲気は漂うものの、山に居て木を扱う人だからこのあ



困気は漂うものの、山に居て木を扱う人だからこのあ

ちよつと失礼になってしまふのだろうか。山の師なんて字ラだけでは大変素晴らしいのに。

木樵(きこり)という言い方も、伐採専門で今ひとつ広がりにかけてそうな気がして使いにくい。で、最近はおんど聞かないが、杉人(そまびと)という表現もあります。生活総てが山の中か、というように、時代錯誤的な雰囲気は漂うものの、山に居て木を扱う人だからこのあ

たりが適当かもしれませぬ。では現在、杉人になるにはどうしたらよいのでしょうか。森林組合や林業会社に就職すればいいのでしょうか。実はこれは狭き門で、求人数は決して多くはありません。じゃあ、自営の杉人として一人でやって行くという決心をした場合、どんな能力が必要なのでしょう。

（にんく）の見積りをすることも忘れてはなりません。

さらには意外と見過ごされがちなのが、コミュニケーション能力ではないかと思えます。山林主に調査や施業の理由や方法を十分に理解してもらい、了承を得なければなりませんし、問伐補助金を当てにするなら県や自治体の林務担当の方に、相談することも不可欠であり、地域の山林情報も必要です。時に、同業の森林組合や林業者に頼ることも出てくるはず。こうしてみると、農業と同じように、林業を自営でやっていくことは結構敷居が高い

さて、10月の終わりの三日間、各地からお集まりいただいた5人の塾生の方に林業の入り口を体験していただきました。雨で搬出はできませんでしたが、調査、分析、施業指針作りとチェーンソーの取り扱いなど、お子様ランチ的なになり勝ちなメニューを消化していただきましたでしょうか。

ことなのですが、何人かでチームを作って各々の過不足を補いあうこともできると思います。またご自分の地元なら必要な情報も入りやすいですし、親戚や知人の支援も期待でき、それらも活用してみてもいいでしょう。



ロープで引いて林道側に倒す

こちらは輪尺で胸高直径測定です。時に、同業の森林組合や林業者に頼ることも出てくるはず。こうしてみると、農業と同じように、林業を自営でやっていくことは結構敷居が高い



思った通りに受け口ができました

さて、10月の終わりの三日間、各地からお集まりいただいた5人の塾生の方に林業の入り口を体験していただきました。雨で搬出はできませんでしたが、調査、分析、施業指針作りとチェーンソーの取り扱いなど、お子様ランチ的なになり勝ちなメニューを消化していただきましたでしょうか。

- 集中コース秋の部**
10月26〜28日(金〜日)
- 一日目**
 8時30分 開講。今回は首都圏から3人、新潟と地元上伊那から各お1人の5人の方の参加していただきました。自己紹介のち、森林現況調査の理論と方法の説明。
 まずみが丘平地林の現場に調査に向かう。
- 12時** 小屋に戻りデータを整理して昼食。
- 13時** 三日目の日曜日が雨の予報なので午後は横山の現場に出て、チェーンソーの始動、玉切りから受け口つくりの練習に入る。受け口がしっかりできれば伐倒は半分以上成功したも同然、この一点



伐倒。林道から下の現場での、勢いよくロープで上に引くか、チルホルドで高所作業に安全帯は不可欠

方向を合わせてください。

17時 チェーンソーのお掃除と目立てを終えて本日終了。交流会に入る。

今日は島崎先生も顔を出してくださり、若い頃のお話や学生運動の盛んな頃の学生気質、保残木マーク法を考えた現場での話や今の林政に思うところなど、たいそう盛り上がりました。お酒も随分すんだような。

二日目
8時30分 今日是一日現場



「アイこそすべて」ではないけれど

17時 本日終了。希望者を特殊伐採機器を扱っている「アウトドアシヨップK」に案内。
8時30分 門脇さんが用事で帰られ、今日は4人。やはり予報どおり天気。が思わしくなく、集材は諦めて現況調査のデータ分析と施業指針作り。結構

12時 パラグライダーの練習場テイクオフ地点で南アルプスを眺めながらお昼。山々は雲をかぶってはつきりしない。現場に戻るときに、横川さんがキノコ発見。かなりおいしいチャナメツムタケを大量確保。
午後もチルホルドなど使いた倒。厄介なかり木もありましたが、動滑車でダブルにしてチルホルド牽引。何とかはずすことが出来ました。チェンソーをお掃除して、

12時 難儀やなあ。昼食。雨が激しくなる。午後は気分転換にロープの端末処理、アイスプライスなどを練習して、
15時30分 終了
参加者/上野さん、門脇さん、草野さん、松本さん、横川さん
講師・スタッフ/早川、松岡
次回以降の予定
第十五・十六回
11月30日12月1日(金・土)
炭焼き・キノコの菌うち・間伐復習
ステンレスの簡易炭焼き窯で今年はずぎ炭を作ってみます。うまく点火したらキノコの菌うち。コナラ原木にシイタケの植菌です。
今回の金曜サロンは信州大学農学部教授の北原曜先生を予定しています。山環境保全学が専門で、災害に強い山造りのお話をしてくださる予定です。これは必聴ですぞ。夕方から炭窯の火の番をしながら忘年会に突入。雑魚寝でかまわなければ、そのまま小屋で泊まります。あればシュラフをご持参ください。翌日朝に炭出し。その後間伐の復習の予定です。出来た炭はお持ち帰り可能。マスク、タオル、軍手など必携
専門コース第三回開催
12月13日15日(木・土)

専門コースの最終回です。山仕事は本来、農作業が一段落した11月頃から本格化し、寒い中で行ってきまして。防寒対策はしっかりと。現場は伊那市野底のアカマツ林の予定です。初日は8時30分に山小屋に集合してください。

リレー通信

「私と林業 中村 憲司 これまで」

私は、そろそろ林業の仕事を始めようと思っています。なかなか他の同業者の方と話す機会もなく、何か機会がないかと探していたらKOA森林塾の講習を発見し、夏期の集中コースに参加させていただきました。短い時間でしたが、知らなかつたことも学ばせていただき、また参加者の方からいろいろ話を伺うことができ、大変充実した3日間を過ごすことができました。その後、講習で知り合った方がボランティアで間拔をしていて森にお邪魔して

みたり、森林塾での出会いが嬉しいものになっています。伊那にもまた行きたいなあ、と思っています。
冒頭で述べた通り、私は現在林業の会社に勤めており、調査業務や伐木造材等の仕事をしています。「大学で林業に全く関係のないことを学んだのに、何で大手の会社に就職しなかったの?」とよく聞かれるのですが、いくつか理由があって出身地茨城で仕事をすると決めました。まず第一に、きつと暮らす場所としては長くその土地にいたほうがいいし、住み慣れた町や実家に近いほうが色々便利であろうということ。第二に、長くキャリアを積みたいのであれば、その地域にある業種で初めから就職したほうがいい、ということ。その他の理由を鑑みて、最初は地元の植木屋に就職しました。しかし、「自分で仕事を起こしたい」という気持ちを持て強くなり、いろいろな理由から植木屋では独立できないと感じ転職をしました。

苦しい業界というのを知りながら林業を選んだのは、オフィスワークは性に合わないし体を使う仕事をしたというところ、自分の故郷近くの筑波山周辺にも山があり仕事があるということ、危険作業だけれど最悪一人親方でもやっていけるかもしれ

れないという考えからでした。
大変でも、自然と向き合いながら、身の丈に合った仕事、自分が考える「いい仕事」をしたいと思いつながら現在も仕事をしています。もちろん、まだまだ知識も経験も技術も足りない状況で、いろいろな機会を探して学んでいきたいと思っています。

私は、現在は会社の事情で神奈川で、水源林の管理業務ということで調査や巡視のため、ひたすら山を歩いて調査や巡視をしたり、唐鎌を使っている道作りをしたりするのは腰にこたえます。山の仕事とは言うっても様々なものがあり、ぜんぶ大変なんだなーと実感する毎日です。会社が小さいことの長所短所両方を学びながら過ごしています。
いつ本場のスタートラインに立っているのか、現在は見当もつきませんが頑張っています。
仕事は林業で、田舎でのんびりマイペースに、ぼちぼち食べていければそれでよし、という人生を送れるように。小さい頃から外で遊ぶのが好きで、大学時代を秋田の田舎で過ごしたおかげで、もはや、自分が都会で生活することは残念ながら考えられま



せん。多くの友人が東京で働いているので、寂しくなったり遊びに行きますが。

大学時代に友人と妄想していたことがあります。それは、自分たちで村をつくるということ、TOKIOがやっていたDASH村というやつを、もう少し大きなコミュニティとして成立させてみたい、というものでした。一度植木屋に就職してみました。この「村を作ってみよう！」というアイデアも後になって私が林業を選んだ理由でした。きっと誰かが山の手入れをしなければならぬのだらうし、友人たちの中で体力仕事は自分が適任のはず。そのアイデアが実現しなくとも、田舎での暮らしは自分の希望でもあるので問題なし。

「自分たちで村をつくるう！」というときに、どうい

う人が必要か、どういう仕事をしなければならぬか考えるということ。それは、秋田で見た田舎の少子高齢化や人口流出で、儲からないけれど必要な仕事をする人がいないために困った状況になっていることを考えることに通じるものがあります。私は田舎でのんびり暮らしたいという気持ちがある強いので、それが変わることはないと考えているのですが、深刻な状況を考えると頭を抱えてしまいます。

私は現在27歳で、まだ若く、田舎で役立てることもあるかもしれない。また林業は若い世代がいけないので、その意味でも役に立てるかもしれない。そう遠くないうちに、一人前の職人になって林業で稼いで、どこかの村を楽しくしながら暮らせばいいなあと思っています。

私は埼玉県所沢市の生まれで、自転車で数分も行けば雑木林があるような環境で育ち、中学校に入るまではその辺の雑木林で良く遊んだものです。

しかし、そんな境遇から一転、中学・高校はバスケットの日々で、体育館育ちのまるつきりインドア派へと変貌したのでした。

外で遊ぶことなんてすつ

理想をただ語っているばかりでも仕方ないので、まずは一歩ずつ着実に成長して自分がハッピーになれるように。かつ、どこかで役に立って、それが森林塾で知り合った方々の耳に入るように、その日が来るよう頑張ります。

おっと、その前にまた講習などでお世話になることもあるかもしれないので、そのときはよろしくお願いいたします。

リレー通信

「森林そして私」

～これまでとこれからと～

丸山 直紀

普通は東京のオフィスにいて、月に一度くらいの頻度で山に行つて森林組合の方々と施業の相談等を行なっています。

そういった業務に携わる中で、現場の事は何も知らない自分ではまずいという危機感と、現場の人のやっていることを少しでも体験して理解したいという理由から今回KOA森林塾の講習に参加致しました。

実際に立木を伐倒すると

かり忘れていた私が、それでも大学で森林総合科学科を選んだのは、昔から親しんだ森が今は間伐不足で困りものになっていくという事実、変に正義感を抱いたからに他なりません。

ですが、高校までの生活で染み付いたインドア派のこの気質は簡単に変わるものではなく、すっかりバスケの虜にもなつてしまつていた私は、勉強もそこそこバスケとバイト生活に明け暮れて、机上の知識は得ても現場での経験はあまり蓄積されずに卒業に至りました。

そんな私でも、幸運なことに縁あって林業に関わる今の仕事に就くことが出来ました。仕事というのは、東京の木材商社の静岡、和歌山、徳島にそれぞれある社有林を事務方として管理するというものです。

KOA森林塾に参加される方は一般の方よりも森林や林業に対する意識が高い方が多いので、「存知の方も大勢いるとは思いますが、実際にGISを利用して一人の視点から、知っていること、考えている事を書きますので、どうかお付き合い下さい。

そもそもGISとはGeographical Information Systemsの略称で、日本語にすると地理情報システムと

いう経験はそうはないので、講習の内容は本当に学ぶことが多かったです。

また、講習も楽しかったですが、講習が終わった後の温泉や、BBQ、山小屋で他の参加者の方たちと語り合う時間も同じくらいに楽しかったのは、自分と同じように森林・林業に興味を持った人達が集まったことももちろんあるし、それに加えてあの伊那の美しい空気が、カラマツ、アカマツの広がる脈々たる山並み等の素晴らしい雰囲気と無縁ではないのだからとしみじみと思いつ返しています。

さて、講習の思い出だけ残りの文字を埋め尽くすという訳にもいかないので、少し真面目に、今現在自分が携っているGISについて書きたいと思えます。

現在GISは様々な分野で利用されていて、ビジネスであれば人口分布や競合店の状況から新規出店最適地を探したり、公共であれば地形や樹種、気象条件を基に山火事の延焼シミュレーションをして消防に活かす等といったことに活用されています。

林業であれば、一区画(林小班)毎に林齢・樹種等の情報を重ねることが出来、樹種別の色分けや、林齢別の色分け等、森林の分布がどのようになっているかが一目で視覚的にわかるようになります。

また、その情報を基に、50年生以上「ヒノキ林」「林道から200m以内」等の条件に該当する区画を検索し、地図上に表示することが可能になります。

施業した履歴を情報として入れておけば、「施業から10年以上経った山林」という条件から伐採計画を立てる

いいです。

地図データ上に様々な情報(レイヤー)を重ね合わせ表示・編集したり、検索・分析したりするシステムのことです。

現在はパソコンの高性能化が進み、またGISソフト自体も無料で配信されているものがある為、過去に比べてGISを導入するハードルが下がってきています。

GISは様々な分野で利用されていて、ビジネスであれば人口分布や競合店の状況から新規出店最適地を探したり、公共であれば地形や樹種、気象条件を基に山火事の延焼シミュレーションをして消防に活かす等といったことに活用されています。



ことができます。

更には、上記のデータに平均胸高直径や樹高、前回伐採したときの材の傾向(うらこ)を加えることにより次回の収支予想も立てることが出来るかもしれないのです。

そういう意味で、GISには効率的に森林の情報を管理するという機能だけでなく、施業コスト等の分析にも役立つ可能性がある、と期待しています。

また、GIS以外にも衛星写真に注目しています。

衛星写真では、画像から針葉樹や広葉樹などの植生の認識や、単木レベルでの樹冠識別によって立木の密度の把握等が可能になると言われていて、上手くいけば調査の作業負担を軽くすることが出来ます。

将来的にはGISと衛星画像を組み合わせて、効率的な管理をしたいと思っています。

日本はヨーロッパと比較してまだまだ森林情報の正確な把握が遅れているようです。GISのセミナーで速水林業代表の速水さんが、ヨーロッパでは森林を評価する際に正確性は欠かせないものであり、ヨーロッパに、今の日本の調査状況では森林の担保価値を判断することが出来ないと言われたという旨のことをおっしゃっていました。

GISや衛星画像の利用、そして森林の調査により森林の正確な状況把握を行うことが、日本の限られた資源を利用する林業と、それに

第二次大戦後森林の造成に主眼を置いてきたわが国の林政は、その成果の内容はともかく、成熟期を迎え始めた森林群の増大を受けて施策を抜本的に見直し、森林法の改正や「森林・林業再生プラン」の策定を受け、平成24年度から森林・林業に関する国の諸制度が大きく変わ



No.9 「新しい造林制度のあらまし」

関連する産業の競争力向上に繋がると思われています。

今後この分野の発展に注目しつつも、KOA森林塾のように外に出て学ぶ機会を見つければ、見る目を養い、現場をおろそかにしないパランスのとれた人間を目指していきます。

貴重な機会を提供して下さったKOA森林塾の皆様、大変ありがとうございました。株式会社江間忠ホルディングス

1) 間伐については施業地を年間5ha以上集約化して計画的に施業する(分散していても可)が必要。

2) 搬出間伐の推進 必要な路網整備を併せて実施し、間伐実施面積1ha当たり10立法メートル以上の間伐材の搬出が必要。

3) 標準単価の見直し 国が全国一律の標準工程を示し、それに基づき県が標準単価を設定。参考までに長野県の間伐補助単価は、搬出材10〜20立法メートル/haで

ました。

ここでは間伐等の補助制度についてそのポイントを紹介しておきたい。

従前の取組みは、必ずしも計画的に行われぬ森林施業に対してもまんべんなく支援されてきた。結果として施業は個々バラバラであり、林道網の整備が十分なため伐り捨て間伐が主体であり、森林蓄積の増大はあっても国産材自給率(20数年来20%前後)の向上には繋がってこなかった。

新たな制度のねらいは、このままでは今後も従来と同じことの繰り返しに過ぎないとして平成23年に打ち出した「再生プラン」では、10年後の木材自給率50%を目標としてつぎのような措置が講じられることになりました。

は12万7820円/haほどで、搬出材積が10立方メートルほど増すごとに3〜4万円ずつ増額されるようです。

なお県ではこうした間伐への直接対応のほか、実施計画の作成、林内路網の整備、高性能林業機械の配備、人材の育成や、計画的な植栽、下刈、除伐などにも支援することとしています。制度改正の内容が複雑多岐にわたるので、周知を図るための説明会なども開かれていますし、不透明な点は林務課や森林組合などに問い合わせ下さい。

戦後の大面積拡大造林地の人工林が続々と成熟期を迎え始めた今日、政策の大変換は是とするが、膨大量におよぶ手入れ不十分な森林群の存在を意識すると、経済不況の最中、非力な担い手集団を持つてどこまで事を成し得るか、関係者の特段の奮起が望まれるところです。

島崎 洋路

今年(2012)の南信州の紅葉、黄葉は特別鮮やかでした。晴れた日が多く、日照量が豊かであり、昼夜の温度差が大きい。しかも霜が降りない、などという条件を満たしたせいだろうと思います。

阿智村に完成した新工場

投稿大歓迎。ご意見ご質問は早川・松岡(事務局)までお知らせください。

TEL 0265-70-7065
FAX 0265-70-7994
E-mail: mi-matsuoka@koanet.co.jp
ki-hayakawa@koanet.co.jp
携帯:090-4463-0062(開催日)
URL http://www.koanet.co.jp

透き通るようなエノキの刈安色、橙色から狐色に変わって行くイロハモミジ、くすんだ卵色から朽葉色が混ざり合うコナラと、行き帰りに堪能させて貰いました。

一週間経ち、山は粧いを解き始め、氷の張る季節になりました。次回森林塾は炭焼き忘年会です。一杯飲んで、楽しい山の話を楽しみましょう。

